



丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和5年5月発行

オール丹那の共有体験 チーム丹那小の思いをつなぐ「150周年記念玄岳遠足」

校長 土屋 貴俊

新年度になり、一か月が過ぎました。子供たちはお互いの意見を尊重しながらよりつながる集団、安心できる学級・学校づくりに向けて主体的な活動が多く見られています。ある学級では、友達に対する呼び方で不快に感じる言い方があることに気付いた子供がみんなで言葉遣いについて話し合いたいことを担任へ申し出ました。すぐにどうすれば誰もが安心できる学級になるのかを話し合いました。入学前からずっと一緒にいる仲間です。安心できる反面、馴れ合いから他者を傷



紙飛行機作りを楽しむ1・2年生

てしまう言葉を口にしてしまうこともあります。自分の言動で相手がどんな思いをするのか、ふり返ることができる子供に育ててほしいと願います。また、勇気のいることだと思いが自ら疑問を感じた時にはみんなに問える子供、それに素直に応えられる集団であることが丹那小のよさだと考えます。

5/12(金)には、玄岳遠足を予定しています。児童が決めた**今年のスローガンは「自然とつながり みんなの笑顔を見つけよう」**です。150周年記念行事としてジオガイドの大坂規久さんをお願いして丹那の自然や歴史について解説していただく予定となっています。その他、子供たちも丹那の自然を身近に感じるための企画を考えています。

この60年以上続く玄岳遠足は丹那小にとってチーム力が試される行事です。今年度も氷が池からの登頂となりますが、とても険しい道のりです。一番の目標は参加者全員が安全に登りきることです。1年生にとっては、自分の力でどれだけがんばることができるか、また上級生にどうやって支えてもらうか、上級生はどれだけまわりの下級生に気遣いができるか、それぞれが強み弱みを生かしてチーム力を高めるよい機会です。この遠足を実施するにあたり、縦割りの4つのグループに分かれて話し合い、歩く順番やめあてを決めました。

また4月22日(土)には、教職員・CS・保護者合わせて15名程で下草刈りや斜面の階段づくり、ゴミ拾いを行いました。参加していただいた皆様ありがとうございました。

毎年、下級生に優しい振る舞いが自然とできる子供たちです。自分も以前にまわりから気遣ってもらい、今度は自分の番だと上級生としての主体性(責任感・行動力)を発揮してくれるのだと思います。毎年玄岳遠足を通して、よい伝統がしっかりとつながっていくことをうれしく思います。どの子も「丹那っ子」としての階段を自分の力で一歩ずつ上がっていきます。今回も30名以上の保護者の皆様に参加していただけることになりました。子供たちだけでなく保護者や地域の皆様がチーム丹那小学校として一体となり、誰一人取り残すことなく支え合い、みんなで同じ目標に向かって進んでいる学校であり地域であることを実感しています。